

「飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくるには」
に関する政策提案（案）

産業建設委員会

はじめに

飯田市においては、「いいだ未来デザイン2028」中期計画の基本目標2において「飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる」を掲げ、様々な施策に取り組んできているところである。

その結果として、宝島社が発行する「田舎暮らしの本」2023年版住みたい田舎ランキングにおいて、人口5万人～10万人未満の都市部門において総合1位に輝くこととなった。また、2021年7月に日本経済新聞社が発表した「多様な働き方が可能な条件がそろったトップ10」においても全国5位という評価をいただいた。

高い評価をいただいたこと自体は大変喜ばしいことではあるが、2022年10月に開催した議会報告・意見交換会において高い評価を受けていることを市民の皆さんに紹介したところ、率直な受け止めは「実感がわからない」というものであった。

これは、雑誌や新聞社から高い評価は受けていても、飯田市の人口動態を見れば未だに社会減が続いている状態であり、市民の皆さんからすれば評価に対して懐疑的にならざるを得ないということだと分析する。

そこで、せっかくいただいた高い評価を活かすためにはどうすればよいかという視点のもと、管外・管内視察、各種意見交換を通じた所管事務調査、議会報告・意見交換会で地域の取り組み状況について意見交換を実施してきた。

これまでの調査・研究を通じて、飯田市への人の流れを「社会増」として真に実感できるようにするためには、様々な視点による取り組み強化が不可欠であるとの結論に至った。

そこで、以下6点について提案する。

1 政策提案事項

(1) 地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握について

- ア 飯田市への人の流れを作るためには、西条市のように「わがまちの特徴」を理解した上での戦略が必要である。この地域の特徴を改めて徹底的に磨き上げ、的を絞った具体的な内容を発信できるようにされたい。
- イ 市民一人ひとりが地域の特徴を理解し、地域への愛着を育み、自信をもって地域の良さを発信できるようにするためにも、子どもだけではなく親世代に向けた広報活動に力を入れられたい。
- ウ 飯田市への移住者を増やすために、農地の下限面積見直しがされるこの機会を捉え、飯田市に関心を持ってきている移住希望者が安心して農地付き空き家を購入できるよう、寄り添った対応に努められたい。

- (2) 誘客（観光）、移住・定住戦略に向けた効果的な情報発信のあり方について
- ア 飯田の情報を発信するコンテンツの充実を進められるとのことであるので、飯田市内外別、世代別、目的別等、ターゲットにあわせた情報を発信されたい。
 - イ 移住定住専用サイトを立ち上げるなど、飯田市の情報の入手を一元化する取り組みを進められたい。
 - ウ 西条市のように、地域愛を育みながら普段から地域をPRする取り組みを始められたい。例えば、短時間で分かりやすいプロモーションビデオの制作、市民共通の合言葉の募集や、商品の開発・販売等。
- (3) 企業誘致と人材確保戦略のあり方について
- ア 業種を問わず慢性的な人材不足にある中、西条市では、お試し移住一棟の運営（利用料一日1,000円）、空き家バンクの住宅改修の補助金、町おこし協力隊のローカルベンチャーの育成、移住支援金（東京都内から本事例の市内の対象企業へ就職した場合）を出すことで企業の人材確保の一つの手段となっていることから、飯田市においても本事例を参考に市内の企業にとって有効な人材確保のための手段を一緒になって研究し取り組まれたい。
 - イ IT系企業は地方でも十分成長できる分野であることから、引き続きエス・バードのサテライトオフィスの貸し出し等による起業時支援に取り組まれたい。
 - ウ 女性が活躍する「場の創出」に令和5年度は取り組まれるとのことであるので、希望に添えるよう寄り添った対応に努められたい。
- (4) 地域との連携について
- ア 宝島社が発行する月刊誌「田舎暮らしの本」の2023年度版で第1位となったが、市民の皆さんの受け止めは「実感が湧かない」というものである。これを市民の皆さん一人ひとりが実感として受け止められるようにするためには、20地区で取り組んでいる活動を連動させ、飯田市全体の活動として情報を発信し、実際に移住という成果として受け止められる仕組みづくりに取り組まれたい。
 - イ 地域資源を有効活用する地場産業を振興するうえで、地域との協力関係は非常に重要になってくる。原料となる作物の栽培場所の確保や栽培への協力者（新規就農者含む）の確保など、後方支援に引き続き取り組まれたい。あわせて、遊休農地の解消につなげられるよう取り組まれたい。
- (5) UIターンを見据えた取り組みについて
- ア UIターンを意識した取り組みとして、働く場所や子育て環境（保育・教育・小児医療の充実等）の構築に取り組まれたい。そのためにも、飯田市に帰ってこない理由や、移住希望者が飯田市に求めるものは何か調査・研究されたい。

(6) これからの産業振興とまちづくりについて

- ア 信州大学の新学部設置検討の動向を見極めつつ、新学部誘致にあたっては会津大学のように産学官の連携が図られるための拠点施設があることによる相乗効果を発揮できる取り組みを進められたい。
- イ 持続可能な中心市街地に向けて、日常的なまちの賑わいを生み出すためには、元々持っていた「居住」に再度視点を向けられたい。そのためにも、高松市丸亀町商店街の取り組みを参考にされたい。

2 主な取り組み経過

令和3年度管外視察（オンライン）

- 1 富山県高岡市 テーマ 魅力的な観光地域づくりと広域観光の推進
 - (1) 新高岡駅を活用した広域観光推進事業について
 - (2) 周辺都市と連携した広域観光の推進について
- 2 愛媛県西条市 テーマ 「チャレンジを応援するまち」の取り組み
 - (1) ローカルベンチャー誘致・育成事業について
 - (2) 民間企業（モンベル）との連携による観光振興について

令和4年度管内視察（所管事務調査に関する部分のみ抜粋）

- (1) しらびそ高原施設について
- (2) かぐらの湯周辺整備について … 今後の動向を反映する必要あり
- (3) 合同会社「クロドテンリュウ ワイン・シードル」の醸造施設について
- (4) 市民農園（飯田ふれあい農園桐林農園）について
- (5) 龍江産業団地について

令和4年度管外視察

- (1) 愛媛県西条市
視察テーマ：昼間人口の増加率を高め、地域内経済循環を図るまちづくりについて
- (2) 香川県高松市
視察テーマ：中心市街地のにぎわい復活を目指した拠点づくりについて
- (3) 香川県高松市丸亀町商店街
視察テーマ：中心市街地及び商店街活性化の取り組みについて
- (4) 岡山県笠岡市
視察テーマ：廃校を活用したシェアアトリエの取り組みについて

令和4年度所管事務調査 … 各種意見交換会

- (1) 大学生ユーチューバー（R4/5/3, R4/8/9）
- (2) アルプスウェア株式会社（R4/5/9）
- (3) 地域連携DMO 南信州観光公社（R4/8/19）
- (4) 宅地建物取引業協会南信支部（飯伊不動産組合）（R3/12/3, R4/12/2）

3 視点別のポイント

1 地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

- 飯田市を知ってもらうためには、この地域の特徴は何か（単に焼き肉ではなく）具体的に捉える必要がある。
- 地域間連携を進めるには、私たちが置かれている状況（地理的条件、地域の特徴等）を理解した上で、果たすべき役割を考えていく（認識）必要がある。
- 飯田市への人の流れを作るためには、市民一人ひとりが地域の魅力（資源）を理解しなければ、その先の活用にはつながらない。
- 信州大学の新学部設置の動向を見極めつつ、情報系分野で産学官が連携することができる素地づくりを着実に進めていく必要がある。
- 農地付き住宅への移住がしやすくなるように、農地の下限面積見直しの動向をどう考えるか。
 - ・高岡市自身が観光の目線に立ったわが町の特徴（地域の実情）を理解している。（オ：高岡市）
 - ・広域観光の推進における高岡市の立ち位置は、越中・飛騨・能登エリアの“ハブ機能”と明確であり、リニア・三遠南信時代に飯田市が果たすべき大きな役割と考える。（オ：高岡市）
 - ・飯田市は南信州エリアと三遠南信エリア（愛知、静岡）との連携を行う上での結節点であることから、地域連携のリーダーシップをより一層発揮していく必要がある。（オ：高岡市）
 - ・他県、他市町村の世界遺産や観光スポットをバスで結ぶ取り組みは、画期的である。（飯田市でも三遠南信開通を見据えて参考になるのでは。）（オ：高岡市）
 - ・西条市自身がわが町の特徴（地域の実情）を理解している。（オ：西条市）
 - ・社会課題の解決を、起業を前提とした地域おこし協力隊に託し、その伴走支援や進捗管理までもコーディネーターとして採用した地域おこし協力隊に任せている。まさに“若者が挑戦できるまち”を実現している。それぞれの起業家（地域おこし協力隊）が最長3年という短い期間で、自身のアイデアを十分に発揮しカタチにするためには、その活動の自由度や地域住民の寛容性が試される。その環境整備が、行政の重要な役割の一つと感じた。（オ：西条市）
 - ・地域資源の有効活用や地域課題の解決を、域外からの起業家の新たな発想により打開を図る取り組みは、一般の地域おこし協力隊の一步先をゆく取り組み。（オ：西条市）
 - ・起業家（個人）や企業（民間）へのアプローチ。（オ：西条市）
 - ・民間感覚からすると、経営として採算が合わないのか。新しい発想は生まれないのか、時期はどうか。（管内：しらびそ）
 - ・行政として安全・安心な道路整備によるアクセス向上に今後も努め、誘客につなげていくことが大切である。（管内：しらびそ）
 - ・温泉施設、飲食施設無しでの発展は難しい。（管内：かぐら）
 - ・早期に整備計画がまとまるように事故後の処理が進むことが重要。（管内：かぐら）
 - ・しっかりとした経営計画を立てて示す必要があると感じる。（管内：かぐら）

- ・再度スタートする限りは、資金繰りができて採算が合うよう、時を選び、また、中途半端でなくしっかり準備したほうが良い。(管内：かぐら)
- ・地元産の農産物が必要になるのであれば、有り難い事業である。(管内：クロド)
- ・クロドテンリュウ自身でも遊休農地を利用してぶどうの栽培を始めており、遊休農地解消に繋がっている。(管内：クロド)
- ・社長が目指す施設とシステムが出来上がり、会社が今後、飯田市に根付いていただけることを祈りたい。(管内：クロド)
- ・非農家の方は農地を借りることができないので、市民農園の取り組みは重要である。借り手側の要望が増加し、遊休農地の削減につながれば。(管内：市民農園)
- ・中心市街地の活性化では、インバウンドも含めた誘客に力を入れている。各種事業の相乗効果により「来たい・住みたい・楽しめるまち」を目指しているが、サンポートエリアにみるように、いわゆる箱物にたよる部分も多い。(管外：高松市)
- ・居住者を増加させることによる商店街の活性化。(管外：高松市丸亀町)
- ・国、県、自治体、商店街の協力体制が構築されている。(管外：高松市丸亀町)
- ・「使いたい」という事業者の思い。「のこしたい」という地域の思い。「地域活性化につながれば」という行政の思い。を事業計画化。共益性、公益性、住民合意のための説明会等を開催し、利活用検討開始(閉校1カ月後)から3年を有し現在に至る。(管外：笠岡市)
- ・どの事業体や組織においても続けていくための財源確保は、避けては通れない最重要の課題の一つ。(管外：笠岡市)
- ・運営管理費については、補助金に頼ることなく自前でまわせる事業スキームを作り上げることがやはり本来の姿である。(管外：笠岡市)
- ・その実現のための情報や知恵の提供といった実務的なサポートをしていくことが行政の役割であろう。(管外：笠岡市)
- ・住みたい田舎ランキングや「焼肉の町」だけではわかりにくい、的を絞って具体的な内容をアピールする。(分析が必要)(意見交換：大学生)
- ・中学、高校での職場体験は、直接Uターンにはつながらないのでは。体験時に強い興味がない限り重要とならない。(意見交換：大学生)
- ・地元どんな企業があるかわからないので、もう少し若い年齢の時に多くの仕事の情報を聞く方が効果が高いのでは。(意見交換：大学生)
- ・飯田市の良さを知ってから他地域へ出て行って欲しい。誇りを持ってほしい。(意見交換：大学生)
- ・市内は製造業が地盤となっていてインフラ環境がどのように整っているかが重要。(意見交換：アルプス)
- ・飯田市はIT系の企業が知られていない。(意見交換：アルプス)
- ・システム分野の詳細を把握することにより、当地域に足りない分野を把握し補うことも必要。(「意見交換：アルプス」を基に委員会独自)

- ・会津大学はコンピュータ理工学専門の大学で情報通信技術（ICT）のあらゆる分野を含んでおり、産学官連携の拠点施設も有している。信州大学の新学部は情報系ともいわれていることから、学部誘致と当地域へ産学官連携拠点施設ができることによる相乗効果を発揮できる取り組みが必要。（「意見交換：アルプス」を基に委員会独自）
- ・女性に視点を当てたIT系における活躍の場（例：システム開発）のPRが必要ではないか。（「意見交換：アルプス」を基に委員会独自）
- ・飯田下伊那の地価動向は、48地点中40地点が下落、上郷飯沼・座光寺の8地点は横ばい（政治的判断か）。地価が下落するところに民間は興味を示さないので、何らかの対策が必要。特に高さ制限などは見直しをしたほうが良い。（意見交換：宅建協会）
- ・新幹線駅の設置が地価上昇、人口増加、産業振興、地域発展に直接はつながらないように見える。（意見交換：宅建協会）
- ・新幹線駅周辺の画一的な開発だけに重点を置かない、飯田下伊那地域としての長期展望が必要である。（意見交換：宅建協会）

2 効果的な情報発信のあり方（3、4を包含）

- 内外への情報発信のありかたをどのようにしていくべきか。
- 飯田市の紹介動画のありかたをどのようにしていくべきか。
- 飯田市の魅力は何か、具体的に発信できるもの（四季別、式年大祭、春秋祭礼、獅子舞、人形劇、一本桜等々）をどのように洗練していくべきか。
- 世代別のメディア戦略をどのようにしていくべきか。
- 目的別の情報発信をどのようにしていくべきか。
- 知りたい人が知ることができる情報発信（若者の視点による飯田市の情報が入手しにくい）をどのようにしていくべきか。
- 地域愛を具体的な形で共有するにはをどのようにしていくべきか。
 - ・外への魅力発信のみならず、内への魅力発信も行っている。（オ：高岡市）
 - ・市民の思い、考えと一致していることが大事との視点は大事なこと。（オ：高岡市）
 - ・外国人観光客の目の付け所を考慮した戦略が必要と感じた。（オ：高岡市）
 - ・西条市のシティープロモーションビデオは中身と編集は参考になる。（オ：西条市）
 - ・郡市民の利用増、リピート増に期待する。（管内：しらびそ）
 - ・温泉施設、飲食施設無しでの発展は難しい。（管内：かぐら）
 - ・早期に整備計画がまとまるように事故後の処理が進むことが重要。（管内：かぐら）
 - ・しっかりと経営計画を立てて示す必要があると感じる。（管内：かぐら）
 - ・再度スタートする限りは、資金繰りができて採算が合うよう、時を選び、また、中途半端でなくしっかりと準備したほうが良い。（管内：かぐら）
 - ・地元でも会社がどんなものか、何をするところかを知らないので多くの方に知っていただくことから始めていきたい。（管内：クロド）
 - ・地権者主体の運営を行っている中で、空き区画が出ないよう時宜に即した利用者募集を行っていると感じた。（管内：市民農園）
 - ・近年は外国人の利用も増えてきている。（管内：市民農園）

- ・若い人の情報収集能力は高い。テレビ、ラジオ、インターネットなどメディアを使って年代別に分けて情報発信する。（管外：西条市）
- ・移住促進サイト＝love 西条 市の公式サイトとは別に人にしっかりスポットを当てている。（管外：西条市）
- ・love 西条のポロシャツを市民が購入できる事と、職員も着用し宣伝している。（管外：西条市）
- ・西条市の紹介動画がとても端的明瞭にまとまっている印象をうけた。（管外：西条市）
- ・情報の発信方法を第一に考えている。伝えたい人に伝えたい内容を伝わる方法で行う。（管外：西条市）
- ・特に力を入れている「回遊性」では、再開発とあわせて上手く魅力発信できれば一定の成果があがると思われる。（管外：高松市）
- ・「情報がうまく若者にとどかない」のでは。（意見交換：大学生）
- ・興味を持ってもらえるような映像にして発信しなければ見てもらえない。（意見交換：大学生）
- ・今後も南信州の魅力を発信していく。同じように南信州の魅力を PR している方とコラボできれば。（意見交換：大学生）
- ・リニアが開通しアクセスが良くなるので、その宣伝を今から進めていくことも重要。（意見交換：アルプス）
- ・採用面では IT 関連の会社は若い人が多く専門的な知識も必要であり出身地が限定されず、どこにあるのかではなく会社が何をしているのかを選択して入社してきている。（意見交換：アルプス）
- ・宿泊施設の料金体系の見直し（料理の質向上とそれに見合った料金設定）（意見交換：観光公社）
- ・体験型プランの充実により、コロナ渦でも来飯者が増加している。（意見交換：観光公社）

3 誘客（観光）戦略のあり方

- ・関係人口を増やすことで移住・定住を目指すなど利便性から誘客をする取り組みがしっかりできていると感じられた。（オ：高岡市）
- ・「交流を楽しみながら旅をする」という明確な取り組みにより観光客誘致（交流人口増大）を行っていることは強み。（オ：西条市）
- ・南アルプスエコパーク・ジオパークをいかに活かすか。（オ：西条市）
- ・飯田市と連携し、南信濃などの観光資源を活かすことを行って頂ける大手の企業はないか。（オ：西条市）
- ・星空をテーマとした「ダークナイトツアー」は、今後の誘客の目玉になる企画だと感じた。（管内：しらびそ）
- ・民間感覚からすると、経営として採算が合わないのか。新しい発想は生まれないのか、時期はどうか。（管内：しらびそ）
- ・行政として安全・安心な道路整備によるアクセス向上に今後も努め、誘客につなげていくことが大切である。（管内：しらびそ）

- ・温泉施設、飲食施設無しでの発展は難しい。(管内：かぐら)
- ・早期に整備計画がまとまるように事故後の処理が進むことが重要。(管内：かぐら)
- ・しっかりとした経営計画を立てて示す必要があると感じる。(管内：かぐら)
- ・再度スタートする限りは、資金繰りができて採算が合うよう、時を選び、また、中途半端でなくしっかり準備したほうが良い。(管内：かぐら)
- ・飯田市に人のながれをつくる、ひと役を是非担っていただきたい。(管内：クロド)
- ・中心市街地の活性化では、インバウンドも含めた誘客に力を入れている。各種事業の相乗効果により「来たい・住みたい・楽しめるまち」を目指しているが、サンポートエリアにみるように、いわゆる箱物にたよる部分も多い。(管外：高松市)
- ・住みたい田舎ランキングや「焼肉の町」だけではわかりにくい、的を絞って具体的な内容をアピールする。(分析が必要) (意見交換：大学生)
- ・飯田に人の流れを作るためには、魅力をアピールして住んでみたいと思わせる事。(意見交換：アルプス)
- ・宿泊施設の料金体系の見直し(料理の質向上とそれに見合った料金設定) (意見交換：観光公社)
- ・体験型プランの充実により、コロナ渦でも来飯者が増加している。(意見交換：観光公社)
- ・飯田下伊那の地価動向は、48 地点中 40 地点が下落、上郷飯沼・座光寺の 8 地点は横ばい(政治的判断か)。地価が下落するところに民間は興味を示さないので、何らかの対策が必要。特に高さ制限などは見直しをしたほうが良い。(意見交換：宅建協会)
- ・新幹線駅の設置が地価上昇、人口増加、産業振興、地域発展に直接はつながらないように見える。(意見交換：宅建協会)
- ・新幹線駅周辺の画一的な開発だけに重点を置かない、飯田下伊那地域としての長期展望が必要である。(意見交換：宅建協会)

4 移住・定住戦略のあり方

- ・関係人口を増やすことで移住・定住を目指すなど利便性から誘客をする取り組みがしっかりできていると感じられた。(オ：高岡市)
- ・市民農園は農ある暮らしの一つの形であり、今後も持続的な取り組みとなるよう望む。(管内：市民農園)
- ・移住フェアへの参加：あればすべて出席する(管外：西条市)
- ・個別無料オーダーメイド型の移住体験ツアーの実施。(管外：西条市)
- ・職員が移住コンシェルジュ。2日間付きっきりで担当は変わらない。(管外：西条市)
- ・人をつなぐ。先移住者につなぐ。そうすることで移住した時にはすでに知り合いがいる環境をつくることできる。(管外：西条市)
- ・体験ツアーを経験した方がホスト役となり話をする。そこまで話に関わっていなかった人、地域の方を巻き込みながら好循環が生まれている。人が人をつなぐ「自分事として考える」。(管外：西条市)
- ・居住者を増加させることによる商店街の活性化。(管外：高松市丸亀町)
- ・国、県、自治体、商店街の協力体制が構築されている。(管外：高松市丸亀町)

- ・住みたい田舎ランキングや「焼肉の町」だけではわかりにくい、的を絞って具体的な内容をアピールする。(分析が必要) (意見交換：大学生)
- ・飯田に人の流れを作るためには、魅力をアピールして住んでみたいと思わせる事。(意見交換：アルプス)
- ・今いる県外の社員はいずれ飯田市で所帯を持っていただきたいと考えている。(意見交換：アルプス)
- ・飯田市の農地の下限面積の条件が周辺町村より厳しいため、せっかく飯田市に興味を持ってもらっても周辺町村へ移住されてしまうので、下限面積の見直しをしてほしい。(意見交換：宅建協会)
- ・飯田下伊那の地価動向は、48 地点中 40 地点が下落、上郷飯沼・座光寺の 8 地点は横ばい(政治的判断か)。地価が下落するところに民間は興味を示さないので、何らかの対策が必要。特に高さ制限などは見直しをしたほうが良い。(意見交換：宅建協会)
- ・新幹線駅の設置が地価上昇、人口増加、産業振興、地域発展に直接はつながらないように見える。(意見交換：宅建協会)
- ・新幹線駅周辺の画一的な開発だけに重点を置かない、飯田下伊那地域としての長期展望が必要である。(意見交換：宅建協会)

5 発想の転換

- ・62 年間限定で土地を借り上げる定期借地権契約を導入。(管外：高松市丸亀町)
- ・道路幅員に加えて、セットバックすることで公共空間と一体となった回遊性の確保。(管外：高松市丸亀町)
- ・商店街の上に医療やコミュニティ施設の設置とその上にマンションを作っている。(管外：高松市丸亀町)
- ・失敗例から学ぶ。(管外：高松市丸亀町)
- ・若者世代にこだわらず、高齢者の移住を強く推進。(管外：高松市丸亀町)
- ・市有施設の老朽化や利用者数の減少等によりこれまで通りの施設運営はできなくなっている。市有施設活用の参考の一つとなった。(管外：笠岡市)
- ・年寄と若者の交流にはデジタル化が必要である。(意見交換：アルプス)
- ・農業の面でもデジタル技術の応用は可能である。(意見交換：アルプス)
- ・採用面では IT 関連の会社は若い人が多く専門的な知識も必要であり出身地が限定されず、どこにあるのかではなく会社が何をしているのかを選択して入社してきている。(意見交換：アルプス)
- ・宿泊施設の料金体系の見直し(料理の質向上とそれに見合った料金設定) (意見交換：観光公社)
- ・体験型プランの充実により、コロナ渦でも来飯者が増加している。(意見交換：観光公社)
- ・飯田市の農地の下限面積の条件が周辺町村より厳しいため、せっかく飯田市に興味を持ってもらっても周辺町村へ移住されてしまうので、下限面積の見直しをしてほしい。(意見交換：宅建協会)
- ・飯田下伊那の地価動向は、48 地点中 40 地点が下落、上郷飯沼・座光寺の 8 地点は横ばい

(政治的判断か)。地価が下落するところに民間は興味を示さないので、何らかの対策が必要。特に高さ制限などは見直しをしたほうが良い。(意見交換：宅建協会)

- ・新幹線駅の設置が地価上昇、人口増加、産業振興、地域発展に直接はつながらないように見える。(意見交換：宅建協会)
- ・新幹線駅周辺の画一的な開発だけに重点を置かない、飯田下伊那地域としての長期展望が必要である。(意見交換：宅建協会)

6 民間と行政の役割分担 … 南信州観光公社との意見交換

- ・観光政策における行政の役割のあり方。(才：高岡市)
- ・中心市街地の再開発については、民間活力の導入によるところが大きい。行政の取り組みとしては、手続き等の事務処理が中心である。(管外：高松市)
- ・居住者を増加させることによる商店街の活性化。(管外：高松市丸亀町)
- ・国、県、自治体、商店街の協力体制が構築されている。(管外：高松市丸亀町)
- ・どの事業体や組織においても続けていくための財源確保は、避けては通れない最重要の課題の一つ。(管外：笠岡市)
- ・運営管理費については、補助金に頼ることなく自前でまわせる事業スキームを作り上げることがやはり本来の姿である。(管外：笠岡市)
- ・その実現のための情報や知恵の提供といった実務的なサポートをしていくことが行政の役割であろう。(管外：笠岡市)

7 企業誘致(利活用者確保)戦略のあり方(8を包含)

- 企業が飯田市に来ることのメリットをどのようにPRしていくのか。
- 中央自動車道、三遠南信自動車道の結節点であることをどう活かしていくか。
- 業種に限定されない慢性的な人材不足をどのようにしていくべきか。
- IT系企業の認知度向上と、男女問わず活躍できることのPRをどのように行っていくか。
- ・企業誘致の取り組みが最重要。(管内：龍江産業団地)
- ・企業誘致の状況についても注視していきたい。(管内：龍江産業団地)
- ・分譲地を希望する企業はあるとのこと。今後も、これほどの敷地を必要とする企業はあるのだろうか。国内、そして世界的な動向はどうか研究したい。(管内：龍江産業団地)
- ・市有施設の老朽化や利用者数の減少等によりこれまで通りの施設運営はできなくなっている。市有施設活用の参考の一つとなった。(管外：笠岡市)
- ・飯田下伊那の地価動向は、48地点中40地点が下落、上郷飯沼・座光寺の8地点は横ばい(政治的判断か)。地価が下落するところに民間は興味を示さないので、何らかの対策が必要。特に高さ制限などは見直しをしたほうが良い。(意見交換：宅建協会)
- ・新幹線駅の設置が地価上昇、人口増加、産業振興、地域発展に直接はつながらないように見える。(意見交換：宅建協会)
- ・新幹線駅周辺の画一的な開発だけに重点を置かない、飯田下伊那地域としての長期展望が必要である。(意見交換：宅建協会)

8 人材確保戦略のあり方

- ・お試し移住一棟の運営（利用料一日1000円）、空き家バンクの住宅改修の補助金、町おこし協力隊のローカルベンチャーの育成、移住支援金（東京都内から西条市内の対象企業へ就職した場合）を出すことで企業の人材確保の一つの手段となっている。（管外：西条市）
- ・採用面ではIT関連の会社は若い人が多く専門的な知識も必要であり出身地が限定されず、どこにあるのかではなく会社が何をしているのかを選択して入社してきている。（意見交換：アルプス）

9 地域との連携強化（10を包含）

- 地域資源を有効活用する地場産業を振興するうえで、地域との協力関係抜きでは進めることはできない。
- 地域の活動を、全市横断的に情報共有し発信できる仕組みづくり。（点の活動を線にし、さらにそれを広げて面の活動（力）に発展させるにはどうしていくべきか）
- ・西条市自身がわが町の特徴（地域の実情）を理解している。（オ：西条市）
- ・社会課題の解決を、起業を前提とした地域おこし協力隊に託し、その伴走支援や進捗管理までもコーディネーターとして採用した地域おこし協力隊に任せている。まさに“若者が挑戦できるまち”を実現している。それぞれの起業家（地域おこし協力隊）が最長3年という短い期間で、自身のアイデアを十分に発揮しカタチにするためには、その活動の自由度や地域住民の寛容性が試される。その環境整備が、行政の重要な役割の一つと感じた。（オ：西条市）
- ・地域資源の有効活用や地域課題の解決を、域外からの起業家の新たな発想により打開を図る取り組みは、一般の地域おこし協力隊の一步先をゆく取り組み。（オ：西条市）
- ・地元産の農産物が必要になるのであれば、有り難い事業である。（管内：クロド）
- ・クロドテンリュウ自身でも遊休農地を利用してぶどうの栽培を始めており、遊休農地解消に繋がっている。（管内：クロド）
- ・社長が目指す施設とシステムが出来上がり、会社が今後、飯田市に根付いていただけることを祈りたい。（管内：クロド）

10 遊休農地化の回避と農ある暮らしの提供

- ・非農家の方は農地を借りることができないので、市民農園の取り組みは重要である。借り手側の要望が増加し、遊休農地の削減につながれば。（管内：市民農園）

11 U I ターン戦略のあり方（12を包含）

- U I ターンを意識したふるさと教育のありかたを再構築していく必要がある。
- IT関連企業があるにもかかわらず、市民にあまり知られていないことを
- ・中学、高校での職場体験は、直接Uターンにはつながらないのでは。体験時に強い興味がない限り重要とならない。（意見交換：大学生）

- ・地元どんな企業があるかわからないので、もう少し若い年齢の時に多くの仕事の情報を聞く方が効果は高いのでは。（意見交換：大学生）考えていく。
- ・飯田市の良さを知ってから他地域へ出て行って欲しい。誇りを持ってほしい。（意見交換：大学生）

12 ふるさと（を知ることの）教育のあり方

- ・中学、高校での職場体験は、直接Uターンにはつながらないのでは。体験時に強い興味がない限り重要とならない。（意見交換：大学生）
- ・地元どんな企業があるかわからないので、もう少し若い年齢の時に多くの仕事の情報を聞く方が効果が高いのでは。（意見交換：大学生）
- ・飯田市の良さを知ってから他地域へ出て行って欲しい。誇りを持ってほしい。（意見交換：大学生）

13 ネットサービスの拡充

- ・飯田市はネットサービスが遅れているというか必要性を感じない人が多いと感じる。（意見交換：アルプス）
- ・若者はネットサービスが無いと集まらない。（意見交換：アルプス）

14 誰でも使えるデジタルコンテンツの開発

- ・年寄と若者の交流にはデジタル化が必要である。（意見交換：アルプス）
- ・農業の面でもデジタル技術の応用は可能である。（意見交換：アルプス）